

すのが正しい。

3. Griffith の原図。ここに示した図は Griffith の *Icones Plantarum Asiaticarum* 2, LXXV 図 B からとったヤワラゼニゴケの雌器床の図で、その裏側を示している。奇妙に感ずるのは、これに頸花植物のおしべが書きこまれていることである。Griffith の原稿の下書きが Kew 植物園に保存されていて、その中にはおしべが書いてない正常な図があったという Prof. Proskauer の手紙で、Kew 植物園の Dr. Taylor に Griffith の原図の写真コピーを送ってもらった。しかし、この中にも明らかにおしべが記入されている。Prof. Proskauer はこのことに関して私宛の手紙に、「おそらく画工がかってに加えたもので、Griffith と画工の間がうまく連絡がとれていなかつたためであろう」という意見である。雌器床の裏側には白い毛状のりん片がたくさんみられるのが普通であるが、おそらくこれをおしべとして画いたものと思われる。更に、同じ LXXV 図 B には(1)図として雌器と葉状体の一部の断面図があるが、この葉状体の上にはゼニゴケなどにみられるような無性芽器が画かれているが、これも明らかに作為的なものである。いずれにしても面白い、どちらかといえばユーモアの感じられる図である。

I published a paper proposing a new family, the Monosoleniaceae of Marchantiiales, in Bull. Nat. Sci. Mus. vol. 9 (2). In the present paper, supplementary notes on the locality in Taiwan, orthography of the generic name, and the illustrations by Griffith of *Monosolenium tenerum* were given. In Taiwan this species was found abundantly in the campus of the National Taiwan University. Although the generic name “*Monoselenium*” has been used, this is apparently an orthographic error and it should be “*Monosolenium*”, as originally Griffith named it.

(国立科学博物館)

○タカサゴトキンソウ東京に繁殖 (久内清孝) Kiyotaka HISUCHI: *Cotula anthemoides* found in Tokyo as an alien

Cotula 属の植物については本誌 18: 3-5 (1952) に原寛氏の記事があり、その中に *Cotula anthemoides* L. (タカサゴトキンソウ) なるものがあるが、このものが、本年東京教育大学の芝生に多数生育していることが伊藤洋氏により認められた。このものは、本邦西部の開港場では知られており、東京でもまれに一二株が見つかったこともあったようだが、教育大校庭に多量に発育して土着している事実は記録に備すると思われる。しかし、いつごろから発生したかは不明であるけれども、ごく近年侵入したことはたしかである。なおこの草は、印度では民間薬の一つとして用いられていたことが、K. R. Kirtikar 氏の *Indian Medicinal Plants* (1918) にかいてあり、リョウマチに外用され、また眼の疾患に用いられることがある。また R. N. Chopra 他二人の版にかかる *Glossary of Indian Medicinal Plants* (1956) にも類似の記事があるが、恐らく前者によったものであろう。その有効成分とか薬理については不詳の域を越しないから、民間薬程度のものであろう。